

令和5年度

教職課程

自己点検評価報告書

名古屋学芸大学

令和6年3月

## 名古屋学芸大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・管理栄養学部（管理栄養学科 栄養）
- ・ヒューマンケア学部（子どもケア学科 幼、小、中・高(保健)、養護、特支）
- ・大学院 栄養科学研究科(栄養)、子どもケア研究科(幼、小、中・高(保健)、養護)

## 大学としての全体評価

本学は、前身であるすみれ女子短期大学の時代から「人間教育と実学」を建学の精神に掲げ、養護教諭の養成に力を注いできた。中部地区においては、養護教諭に占める本学卒業生の割合が高く、社会的に高い評価を受けてきた。

2002年に4年制大学となり、「知と美と健康の創造」を基本理念に、幼稚園教諭、小学校教諭、栄養教諭、2021年からは特別支援学校教諭の養成課程が加わった。また、大学院では専修免許を取得できるようになった。各学部、学科、専攻、大学院研究科がそれぞれの特性を活かし、時に連携して、子どもを取り巻く社会問題に対応できる教員の養成に努めている。

2022年には、“教職課程の教育体制の充実”を目指し、全学的組織として教職センターを設置した。これにより、学部、学科、専攻と連携して、教育実習など各種学外実習、資格の申請手続き、教員採用試験、保育職試験などの情報提供と対策講座などの支援を、大学4年間を通して計画的に実施できるようになった。

さらに、今年度は「教職課程自己点検評価」を行う中で、本学の教職課程教育が概ね順調であり、特に、地域と連携した養成が充実していることが明らかとなった。一方で、教員間の情報共有体制の強化や、学生のICT活用能力を育てるカリキュラムの充実など、いくつかの課題が抽出された。これを改善の好機と捉え、「地域に学び、人と結び、人を支えて、世界にはばたく」教員の養成に取り組んでいく意向である。

名古屋学芸大学

学長 杉浦 康夫

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	14
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	27
III	総合評価(全体を通じた自己評価)	38
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	39
V	現況基礎データ一覧	40

## I 教職課程の現況及び特色

### 1-1 現況

- (1) 大学名：名古屋学芸大学
- (2) 学部名：管理栄養学部 / ヒューマンケア学部
- (3) 所在地：愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地
- (4) 学生数及び教員数

(令和5(2023)年5月1日現在)

学生数：	管理栄養学部	教職課程履修143名／学部全体698名
	ヒューマンケア学部	教職課程履修753名／学部全体890名
教員数：	管理栄養学部	教職課程科目担当 1名／学部全体24名
	ヒューマンケア学部	教職課程科目担当 33名／学部全体38名

### 1-2 現況

- (5) 大学名：名古屋学芸大学大学院
- (6) 学部名：栄養科学研究科 / 子どもケア研究科
- (7) 所在地：愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地
- (8) 学生数及び教員数

(令和5(2023)年5月1日現在)

学生数：	栄養科学研究科	教職課程履修 2名／研究科全体16名(前期課程)
	子どもケア研究科	教職課程履修 0名／研究科全体 1名
教員数：	栄養科学研究科	
		教職課程科目担当(教職・教科とも) 8名／研究科全体16名
	子どもケア研究科	
		教職課程科目担当(教職・教科とも) 6名／研究科全体 7名

## 2 特色

本学は、「人間教育と実学」を建学の精神とし、「知と美と健康の創造」を教育の基本理念に掲げている。我々を取り巻く環境と日常の生活に、「食」、「創造・表現・造形」、「心身」、「医療・看護」の4分野の方面からアプローチし、実践的な学びの中で様々な課題に対応できる社会人を育成することに努めている。

教員養成は、管理栄養学部、ヒューマンケア学部子どもケア学科（子どもケア専攻、幼児保育専攻、児童発達教育専攻）、同大学院の栄養科学研究科、子どもケア研究科において、幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭・養護教諭、栄養教諭を養成している。0歳から18歳までの子どもの発達や学びの連続性を捉え、現代社会において特に大切な食や心身のケアを、幼少期から成人までの成長過程で体系的に学ぶことができる。

また、本大学院では専修免許を取得できる。栄養教諭の専修免許を取得できる教育機関は少ない。また、幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭・養護教諭養成を一つの研究科に併せ持つ大学院は少ない。大学院でそれぞれの領域の専門性および幅広い分野の課題解決能力を高めることができる。

実践的指導力の育成および地域との連携として、ヒューマンケア学部附属の施設である「子どもケアセンター」では、実際に子どもや保護者と触れ合う行事(絵画工作、遊具作り、親子クッキングなど)を運営し、より現場に近い体験学習ができる。管理栄養学部では、栄養教諭を招いて研究会を開催し、業務内容、社会における重要性等を理解する機会を設けている。また、地域の小学校と連携したボランティア活動では、学習指導、定期健康診断の補助、給食指導等に関わり、実践の場面がイメージできる機会を設けている。

これら、本学の特徴を活かした教育により、「知と美と健康の創造」における多様な視点で社会の問題を身近に感じ、解決できる教員の育成を行っている。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### 《管理栄養学部》

###### [現状説明]

管理栄養学部では、教職課程教育の目的・目標を、以下のように周知、共有、可視化している。

- ・ディプロマポリシー(D.P.)に「健康の維持増進を目的とした食育を実践できる能力を育成する」ことを掲げ、これを教職課程の各科目の教育目的・目標としてシラバスに記載し、育成を目指す教師像を学生に周知している（資料：ディプロマポリシー、シラバス）。
- ・大学の各学科所属の関係教職員によって構成される教職課程委員会にて、教育目的・目標について議論・共有し、教職課程教育を計画的に実施している。会議議事録を学部の教授会で報告し、学部内の他の教員とも教職課程教育の目的・目標を共有している。
- ・シラバスのカリキュラムマップに、教職課程の各科目と、それを通して育もうとする能力をD.P.で明記し可視化している（資料：カリキュラムマップ）。

###### [長所・特色]

管理栄養学部の教職課程教育の目的・目標、およびその共有には、以下のような長所・特色がある。

- ・生涯健康であるために、子どもの頃から食を通して健康づくりをすることの重要性が認識されつつある。そのような社会のニーズに応じた栄養教諭の育成を、教育の目的・目標に掲げ、目指す教師像として学生に周知している（資料：ディプロマポリシー、シラバス）。
- ・学科の教育編成を取りまとめる立場である学科長が、教職課程委員会の構成メンバーとなり、教職課程教育の目的・目標、学科の教育編成における位置付けを理解し、学科として教職課程教育を計画的に実施している（資料：ディプロマポリシー、カリキュラムマップ）

###### [取り組み上の課題]

管理栄養学部の教職課程を担当する教員の多くは学部外教員であり、情報を共有する機会が少ない。教員間の交流の機会を増やし、教育目的・目標の共有、学生の修得度の把握や教育上の課題解決などを連携して行う必要がある。

##### 《ヒューマンケア学部》

ヒューマンケア学部子どもケア学科では、以下のように教職課程教育の目的・目標を設定し、周知、共有、可視化している。

- ・本学の教員養成の理念に基づき 0 歳から 18 歳までの子どもの発達や学びの連続性を踏まえ、一貫した質の高い学校教育を担える教員の養成を目指している。
- ・学部運営会議にて D.P. との関連の基、学部の教職課程の目的・目標を議論し、各学校種における専門性と照らし合わせ、各専攻にて年次ごとの到達目標を作成している。
- ・その到達目標を各科目のシラバスにて具現化し、学生に学ぶべきことを周知している。
- ・特に、学習指導要領等の改訂理念や子どもを取り巻く環境の変化に伴う様々な審議の方向性等を教職課程科目担当間で共有し、現状と課題の把握に努めている。

#### <子どもケア学科子どもケア専攻>

##### [現状説明]

子どもケア専攻のディプロマポリシーとして、「養護教諭の職務及び子どもの現代的課題を理解するための知識・技能を習得し、効果的に解決するために受容的・応答的に関わる力を身に付ける。さらに、教職員のみならず、保健、福祉等の関係機関、保護者等と連携協働して効果的な解決を図ることができる人材を育成する。」ことを掲げ、これを教職課程の各教科の教育目的・目標としてシラバスに記載し、めざす養護教諭像を学生に周知している（資料：人材養成の目的、三つのポリシー）。

##### [長所・特色]

子どもケア専攻の教職課程教育の目的・目標、およびその共有には、以下のような長所・特色がある。

- ・教育課程に関する情報共有について、教員間においては専攻会議を通じて、学生－教員間においては、クラスアドバイザーやゼミ教員を通じて実施している。さらに、毎年の学期始まり前には学年ごとに学生を集めて履修ガイダンスを行い、教職課程科目に関する情報の共有も行っている（資料：教職課程キャリアガイダンス等年間スケジュール、4年間の学びの流れ）。
- ・「健康教育」に強い養護教諭を養成するため、「中学校教諭一種（保健）」「高等学校教諭一種（保健）」免許状についても取得可能である。また、そこで得られた知識や授業を行うスキルは小学校で働く養護教諭にも応用可能である。

##### [取り組み上の課題]

子どもケア専攻の教員は10名で、専門分野は、衛生学・予防医学、学校保健・養護学、看護学、小児保健、生理学であり、教員はそれぞれ独自の研究分野を持っている。前述のように、専攻会議について情報共有は適切に行われているが、目指す養護教諭像や学生の学習成果の把握については、必ずしも共有できているとは言い難い状況である。今後は目指す養護教諭像や

学習成果等の可視化に努め、情報共有がなされるよう取り組みたい。

<子どもケア学科幼児保育専攻>

[現状説明]

幼児保育専攻は、ディプロマポリシーとして、「乳幼児期の特性を踏まえ、ケアと教育を一体化とし、受容的・応答的な支援の構想力・実践力を身につけている。」ことを示している。これを教職課程の各科目の教育目的・目標としてシラバスに記載し、さらに、中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」(平成27年12月)等も踏まえ、教員間で共有している(資料: 人材養成の目的、三つのポリシー、教職課程履修ハンドブック、シラバス)。

[長所・特色]

幼児保育専攻の教職課程教育の目的・目標には、以下の長所・特色があり、それらを教員間で共有している。

- ・教職希望者は、幼稚園教諭と小学校教諭が対象となる。幼児保育専攻では主として保育士資格と幼稚園教諭免許の取得を目指し、小学校教諭免許取得希望者には一定の条件の下、可能としている。
- ・幼稚園教諭免許取得希望者は、各専門科目の学修を基盤に、1年次後期から2年次前期の保育実習指導・保育所での実習を通し、乳幼児の発達過程やその援助の具体を知る。その体験を2年次後期から3年次前期の教育実習指導〔幼〕につなぎ、姉妹校の菱野幼稚園での観察実習において幼児理解をさらに深める。並行して各専門科目においても模擬保育等を通して実践力を養う。幼児の生活や学びの連続性を見通した指導計画の作成等には個別指導も受け、幼稚園実習において保育を構想し実践する力を身に付けていく(資料: ヒューマンケア学部HP 4年間の学びの流れ)。
- ・小学校教諭免許取得者は少人数制の授業により、児童の実態に応じた細やかな指導計画作成や模擬授業等の指導を行っている。
- ・学生が作成するポートフォリオを教職課程の教員が確認し、一人ひとりの適正や修得度を把握している。

[取り組み上の課題]

小学校教諭免許にかかわる教職課程教育を担う教員は専攻の教員ではない。分属という形で専攻に属さない一部の教員も専攻会議に参加しているが、教職課程教育の目的を共有するまでの情報交換に至っていない。具体的な授業内容や学生の姿より教職課程教育の目的について共有する機会を意図的に設けていく必要がある。

<子どもケア学科児童発達教育専攻>

[現状説明]



児童発達教育専攻の教職課程の教育の目的は、児童の発達と教育に関する専門的な知識と技能を身につけるとともに、児童の多様なニーズに対応できる教員としての資質や能力を養成することである。このように、児童発達教育専攻の教職課程は、児童発達教育（子ども学）の専門家として、そして優れた教員として活躍できる人材を育成することを目指している。これを児童発達教育専攻のディプロマポリシーに掲げ、教職課程の各科目の教育目的・目標としてシラバスに記載し、育成を目指す教師像を学生に周知している（資料：ディプロマポリシー）。

#### [長所・特色]

児童発達教育専攻では、「小学校教育」、「特別支援教育」、「心理学」領域の3つの学びを重視したカリキュラムを設置している。このカリキュラムは、小学校教育の学びを現代的な視点で強化し、教育の原点に迫る「特別支援教育の学び」と人の内面を理解することで教育者としての土台を築く「心理学」を融合した独自のものである。このことはカリキュラムツリーによって可視化している（資料：カリキュラムツリー）。

#### [取り組み上の課題]

OECD が示した「ラーニングコンパス（学びの羅針盤）」や中教審答申として示された「第4期教育振興基本計画」に記されたような Well-Being を目指し、児童生徒のエージェンシー（Agency）を高める指導力が求められている。しかし、学生が自ら自己改革・変革を図りきれていないことが課題である。当事者意識をもち、自ら新たな教員像を描くことができる学生をどう養成するかが問われている。そのため、学生が作成するポートフォリオを、教職課程の教員が確認し、一人ひとりの適正や修得度を把握している。学生はポートフォリオを通して自身の修得度を評価している。ポートフォリオの作成が形式的にならないように、教員間で共通理解を図り、作成意義の理解の向上と学生への指導と支援が必要である。

#### 《大学院》

##### <栄養科学研究科>

#### [現状説明]

栄養科学研究科では、教職課程教育の目的・目標を、以下のように周知、共有、可視化している。

- ・人材養成の目的に「食と健康と医療に関わる総合的見識を有する栄養科学の研究者・教育者および高度専門職業人養成を目指す」ことを掲げ、専修免許を有する教員として目指す教師像を学生に周知している（資料：人材養成の目的）。
- ・大学院研究科委員会にて、教育目的・目標について議論し、シラバスチェックを行うことで、教職課程教育を計画的に実施している。
- ・履修登録ガイダンス時に、専修免許取得に必要な科目と、それを通して育もうとする能力を明記したシラバスを配布し、履修指導を行っている（資料：カリキュラム、シラバス）。

## [長所・特色]

栄養教諭養成課程を持つ大学で、大学院が設置され、栄養教諭の専修免許を取得できる教育機関は少ない。専修免許取得に必要な科目の領域は、人間栄養、臨床栄養、食行動・食環境、食品機能・食品安全と多岐にわたる。食と健康に関わる様々な領域における見識を深めることの必要性をシラバスに示し、専修免許を有する教員として目指す教師像を学生に周知している（資料：カリキュラム）。

## [取り組み上の課題]

栄養教諭専修免許取得必須科目を担当する教員同士が連携して系統的に教職課程教育を行っていない。大学院担当教員で構成される大学院研究科委員会にて、教職課程教育の編成について議論する機会を設ける必要がある。

## &lt;子どもケア研究科&gt;

## [現状説明]

子どもケア研究科では、教職課程教育の目的・目標を、以下のように周知、共有、可視化している。

- ・人材養成の目的に「0歳から18歳までの『子ども』を対象として、教育や保育の分野、学校現場、医療機関、さらには子どもを支援する多様な分野における実践的で高度な専門的知識・技術を身につけ、子どもを慈しみ、守り、育てるという『子どもケア』を担う専門的職業人の養成を目指す」ことを掲げ、専修免許取得に必要な科目の教育目的・目標をシラバスに記し、学生に周知している（資料：人材養成の目的と各ポリシー、シラバス）。
- ・大学院研究科委員会にて、教育目的・目標について議論し、シラバスチェックを行うことで、教職課程教育を計画的に実施している（資料：大学院研究科委員会議事録）。
- ・履修登録ガイダンス時に、専修免許取得に必要な科目と、それを通して育む能力を明記したシラバスを配布し、履修指導を行っている。

## [長所・特色]

大学院に幼稚園教諭・小学校教諭・養護教諭養成を一つの研究科で併せ持つ教育機関は少ない。専門以外の様々な分野から科目を選択し、多面的な視野で子どもをケアする能力を育成している（資料：カリキュラム）。

## [取り組み上の課題]

学部的一种免許状取得必須科目を担当する教員と専修免許状取得必須科目を担当する教員が一部で異なり、連携して系統的に教職課程教育を行うことができていない。今後、情報を共有していく必要がある。

## 【根拠となる資料・データ等】

<管理栄養学部>

1-1-1：名古屋学芸大学「履修の手引き」（2023年度 管理栄養学部）p1  
管理栄養学科の人材養成の目的、三つのポリシー ディプロマ・ポリシー

1-1-2：管理栄養学部シラバス  
<https://portal.nuas.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>

1-1-3：名古屋学芸大学「履修の手引き」（2023年度 管理栄養学部）p2～4  
管理栄養学科カリキュラムマップ

#### <子どもケア専攻>

1-1-1：名古屋学芸大学「履修の手引き」（2023年度 ヒューマンケア学部）  
子どもケア学科の人材養成の目的、三つのポリシー p5～7

1-1-2：名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 HP 「学部・学科・研究科の紹介」  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/college/child\\_care/index.html](https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/college/child_care/index.html)

1-1-3：名古屋学芸大学規定集 5. 教職課程キャリアガイダンス等 年間スケジュール  
<https://www.nuas.ac.jp/download/2023/kyoshoku1-5.pdf>

1-1-4：名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 HP 「4年間の学びの流れ」  
<https://www.nuas.ac.jp/humancare/schoolhealth/4years.html>

#### <幼児保育専攻>

1-1-1：名古屋学芸大学「履修の手引き」（2023年度 ヒューマンケア学部） 1. 子どもケア学  
科人材養成の目的、三つのポリシー P5～7

1-1-2：名古屋学芸大学「教職課程履修ハンドブック」V-c. 教育実習（幼稚園実習）

1-1-3：名古屋学芸大学受験生サイト ヒューマンケア学部幼児保育専攻シラバス  
<https://portal.nuas.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>

1-1-4：名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 HP 4年間の学びの流れ  
<https://www.nuas.ac.jp/humancare/childcare/4years.html>

#### <児童発達教育専攻>

1-1-1：ディプロマポリシー 「履修の手引き」（2023年度 ヒューマンケア学部） P7

1-1-2：児童発達専攻カリキュラムツリー  
[https://www.nuas.ac.jp/humancare/elementary-education/pdf/Curriculum\\_Tree\\_elementary.pdf](https://www.nuas.ac.jp/humancare/elementary-education/pdf/Curriculum_Tree_elementary.pdf)

#### <栄養科学研究科>

1-1-1：人材育成の目的  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/policy/g\\_nutritional.html](https://www.nuas.ac.jp/profile/policy/g_nutritional.html)

1-1-2：名古屋学芸大学大学院 大学院栄養科学研究科 カリキュラム  
<https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/grad/nutritional/curriculum.html>

1-1-3：大学院栄養科学研究科シラバス  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas\\_syllabus\\_gn.pdf](https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas_syllabus_gn.pdf)

#### <子どもケア研究科>

1-1-1：人材養成の目的と各ポリシー  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/policy/g\\_child\\_care.html](https://www.nuas.ac.jp/profile/policy/g_child_care.html)

1-1-2：大学院子どもケア研究科シラバス：名古屋学芸大学のホームページ  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas\\_syllabus\\_gc.pdf](https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas_syllabus_gc.pdf)

1-1-3：名古屋学芸大学大学院 子どもケア研究科 カリキュラム  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/grad/child\\_care/curriculum.html](https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/grad/child_care/curriculum.html)

## 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

### 《管理栄養学部》

[現状説明]

管理栄養学部では、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みとして、以下の組織的工夫を行っている。

- ・教職課程認定基準を踏まえて教員を配置している。特に、教育現場の実状やニーズに応じた教育を行うために、現場経験の豊富な実務家教員（専攻分野における概ね 5 年以上の実務経験を有し、かつ高度の実務能力を有する者）を配置している。また、最新の研究成果を教育に活かすために、研究者教員（教育研究を行うことを主たる職務とする教員）を配置している（資料：教員組織）。実務家教員と研究者教員が学部の教職課程委員会を構成し、協働体制を構築している。
- ・学部と教職センターの役割分担として、教職センターは事務手続きを行い、教職課程担当教員は教育に専念している。
- ・教職課程の質的向上のために、学生は受講結果アンケートを実施し、教員はアンケート結果を基に授業運営の振り返りと学生へのフィードバックを行うシステムが整っている。組織的に教育効果の評価を行うために、教職課程委員を含む FD 委員会が組織されている（資料：「学生受講結果アンケート、授業運営の教員振り返りのまとめ」）。
- ・教員養成の状況について、大学ホームページに情報を公表する体制が整っている（資料：ホームページ「教員の養成の状況」に関わる情報公表）。
- ・この自己点検評価を通して、全学組織（教職課程委員会、教職センター）と学部の教職課程とが連携し、教職課程教育を見直す体制が整いつつある。

#### [長所・特色]

子どもを取り巻く様々な健康・栄養問題に対応できる栄養教諭を育成するために、食物アレルギー、食育、食環境、給食管理、疾病予防などを専門とする研究者教員と実務家教員を配置し、様々な分野の教育を行う体制ができている。

#### [取り組み上の課題]

初等中等教育現場ではICTを活用した教育が進んでいるが、本学部では教職課程教育を行う上で、ICTを活用した教育を積極的に行っている教員が少ない。今後、組織的にICT教育を進めるために、ICT活用教育推進室やFD推進委員会と連携し、研修会の開催やサポート体制を構築する必要がある。

#### 《ヒューマンケア学部》

ヒューマンケア学部子どもケア学科では、教職課程認定基準を踏まえた教員、特に、長年、学校教育に携わり校園長経験のある教員を多く配置している。学校教育における全ての教員等が備えるべき普遍的な資質と現代的な諸課題に対応可能な具体的かつ、実践的な指導の在り方を学生が体得できる体制を整えている。

#### <子どもケア学科子どもケア専攻>

## [現状説明]

子どもケア専攻では、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みとして、以下の組織的工夫を行っている。

- ・教員配置に関して、教職課程認定基準を踏まえて研究者教員と実務家教員を配置し、教育現場の実態やニーズに応じた教育を行っている（資料：教員組織、カリキュラムマップ&ナンバリング）。
- ・「養護教諭特別講座担当室」を設けて、実務経験のある教員や退職校長が、3年生後期より学生の要望に応じて、教職に関わる相談や教員採用試験への対策に向け指導等を受けられる体制を整えている。
- ・学外実習は講義や学内での演習で学んだ知識やスキルを、実際の教育現場などで実践できるよう、教育現場を熟知した教員たちが、事前指導、実習中フォロー、事後指導を実施し、サポートを手厚く行っている。
- ・教職課程の資質向上のために、学生に授業評価アンケートを実施し、教員はその結果を基に授業運営の振り返りと学生へのフィードバックを行っている（資料：学生受講結果アンケート）。

## [長所・特色]

子どもケア専攻の教職課程に関する組織的工夫には、以下のような長所・特色がある。

- ・時代のニーズに即した養護教諭の育成を目指し、教員に養護教諭経験者を多く配置し、職務全般を学習しできる体制をとっている。
- ・本専攻では、免許・資格として、養護教諭一種免許状の他にも中学校・高等学校一種免許（保健）、准学校心理士、健康管理士一般指導員を取得することができ、それらの免許・資格が無理なく取得できるよう免許・資格関連科目を配置している。

## [取り組み上の課題]

2022年度に設置された「養護教諭特別講座担当室」については、教員採用試験への対策として一定の効果を上げている。しかし、担当教員が学部外教員であるため情報を共有する機会が少ない。そのため、指導の方向性や採用試験特別講座の地域別採用試験対策の内容等について、担当室と専攻教員との情報共有が不十分である。情報共有の機会を増やし、採用試験対策をより効果的に進めていく体制作りが必要である。

## &lt;子どもケア学科幼児保育専攻&gt;

## [現状説明]

幼児保育専攻では、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みとして、以下の組織的工夫を行っている。

- ・教職課程認定基準を踏まえて実務家教員を配置し、教育現場の実状やニーズに応じた教育を

行っている。特に、実習指導においては、保育・教育現場の園長等を経験した特任講師(実習)を配置し、保育・教育現場での実態に応じた具体的な実習記録・指導計画の作成について個別に指導を行っている(資料:学外実習を手厚くサポートするチューター制度)。

- ・最新の幼児教育の動向や研究成果等を指導に活かす体制を整えている(資料:教員組織)。

#### [長所・特色]

各授業における指導に加え、特任講師(実習)による学生の観察記録や指導計画作成の個別指導を強化し、その個別の指導を通じた課題を実習指導の授業にて学生全体に還元・共有する体制を整えている。実習指導教員と特任講師(実習)と学生への指導内容の一貫性を保障するため、実習指導内での学生指導の方針やMoodle(e-learningシステム)上の授業資料、学生へのアナウンス等を共有する体制を作っている。

#### [取り組み上の課題]

幼児保育専攻の教職課程に関する組織的工夫には、以下のような取り組み上の課題がある。

- ・特任講師との情報を共有する機会が限られている。定期的な打ち合わせに留まらず、専攻会議で共有された教育目的・目標、学生の修得度、教育上の課題についても適宜、共有していく体制が必要である。
- ・幼児保育専攻では、保育所、児童福祉施設、幼稚園、小学校(2022年度生よりスタート)での実習を実施している。それぞれの施設・学校種での実習の特性を尊重しつつ、指導の方向性、子どもの発達や学びの連続性等を重視した実習内容に統一すべきである。これらを実習施設と共有する体制を作ることで、より学修の定着を図る必要がある。

#### <子どもケア学科児童発達教育専攻>

#### [現状説明]

児童発達教育専攻では、将来のビジョン形成に最も強い影響を与える学外実習(介護等体験・教育実習等)をより実りあるものにするため、教職センターと連携し、教育現場を熟知した実務家教員が、事前指導、実習中フォロー、事後指導を実施している。実習の質を大きく左右すると言われる実習計画の立て方からマンツーマンで丁寧にサポートし、実習中の相談や事後の振り返りも手厚く行う体制を整えている(資料:教職プロフェッショナル講座・実習サポート等)。

#### [長所・特色]

児童発達教育専攻の教職課程に関する組織的工夫には、以下のような長所・特色がある。

- ・教職経験をもつ実務家教員で教職課程を組織し、教職センター職員と教職課程の教員とで毎月、「教職課程ミーティング」を開催している。そこでは、実習の支援や学生の履修に関することなど様々な問題が具体的に討議され、共通理解と連携の円滑化を図っている。さらに、これとは別に教職課程教員情報交換会を実施し、科目履修や科目開講などの調整や個々

の学生の状況やそれに対する指導・支援のあり方など細部にわたる検討を行っている。

- ・教職課程の教員は「3専攻（子どもケア専攻、幼児保育専攻、児童発達教育専攻）」にそれぞれ分属し、各専攻と教職課程の連絡・調整を図っている。
- ・教職を目指している学生に対しては、学年別に担当教員を決め、1年生「教職へのアプローチに仕方」から始まり、2・3年生では「専門的な力量の向上、指導技術の向上」など、4年生では教職に就く前の実践的補講講座などを開催しており、組織的・段階的な教員養成計画を立て実施している。

#### [取り組み上の課題]

本学は昨年度（令和4年度）に教職センターの組織を立ち上げたばかりである。教職センター内の役割分担や担当も整いはじめたが、教員採用試験の早期化、複線化など喫緊の課題も多い。今後の教員養成に対応できるように、情報を共有し、体制を強化していく必要がある。

### 《大学院》

#### <栄養科学研究科>

#### [現状説明]

栄養科学研究科では、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みとして、以下の組織的工夫を行っている。

- ・教職課程認定基準を踏まえ、子どもの健康・栄養問題に関する最新の研究成果を教育に活かせる専門性の高い教員を配置している。（資料：教員組織）。
- ・学生に授業アンケートを実施し、大学院教職課程教育の向上に活かす体制が整っている。
- ・教員養成の状況について、大学ホームページに情報を公表する体制が整っている（資料：ホームページ 課程終了後の主な就職先）。
- ・この自己点検評価を通して、全学組織（教職課程委員会、教職センター）と大学院研究科委員会とが連携し、教職課程を見直す体制が整いつつある。

#### [長所・特色]

本研究科では、子どもを取り巻く様々な健康・栄養問題に対し、専修免許をもつ栄養教諭として、最新の研究結果に基づいた指導ができるようになることを目指している。そのために、食物アレルギー、食環境、食品衛生、疾病の予防と改善、などを専門とする研究者教員を配置し、様々な分野で社会を牽引できる人材を育成する体制ができている。（資料：教員名簿）

#### [取り組み上の課題]

本研究科には、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みとして、以下の課題がある。

- ・栄養教諭として実務経験のある教員が大学院の教育課程を担っていない。今後、実務家教員

と協働して教育を行う体制を作る必要がある。

- ・初等中等教育現場では、ICT を活用した教育体制が整いつつある。今後は特に、生成 AI の活用を想定した教育の準備が必要となる。本研究科では教職課程教育を行う上で、ICT を活用した教育を積極的に行っている教員が少ない。今後、関連の教育シンポジウム等を開催したり、ICT 活用経験のある教員からのサポート体制を構築して、その技術で学生の考える力や想像力を育成する体制を作る必要がある。

#### <子どもケア研究科>

##### [現状説明]

子どもケア研究科では、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みとして、以下の現状がある。

- ・教職課程認定基準を踏まえて教員を配置し、教育を行っている（資料：教員組織）。
- ・教職課程の質的向上のために、学生に授業評価アンケートを実施している。
- ・自己点検評価を通して、全学組織（教職課程委員会、教職センター）と大学院の教職課程とが連携し、教職課程を見直す体制は整いつつある。が、入学者が少ないので、研究科全体の教育課程を見直すまでに至っていない。

##### [長所・特色]

本研究科には、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みとして、以下の長所・特色がある。

- ・子どもを取り巻く様々な課題に対応できる専門的職業人を育成するために、「子どもの病気・保健」「学校安全」「子育て支援」「社会福祉」「健康教育」「発達心理」「教育相談」等を専門とする研究者教員と実務家教員を配置し、学校、家庭、地域社会、医療機関の視点から子どもをケアする（教育を行う）ことを理解し、実践できる体制づくりが整いつつある。

##### [取り組み上の課題]

生成AIを含むICTを活用した教育を想定した教育を行う体制作りが必要である。

#### 【根拠となる資料・データ等】

<管理栄養学部>

1-2-1：教員組織（管理栄養学部）

<https://www.nuas.ac.jp/profile/staff/nutritional.html>

1-2-2：教員組織（教職課程）

<https://www.nuas.ac.jp/profile/staff/lectureship.html>

1-2-3：学生受講アンケート結果まとめ 2022 年度（名古屋学芸大学 FD 推進委員会）

<https://www.nuas.ac.jp/download/2022/2022jigyohyoka.pdf>

1-2-4：「教員の養成の状況」に関する情報公表

<https://www.nuas.ac.jp/profile/information/index2.html#info5>

<子どもケア専攻>

1-2-1：名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 HP 「教員組織」



- [https://www.nuas.ac.jp/profile/staff/child\\_care.html](https://www.nuas.ac.jp/profile/staff/child_care.html)
- 1-2-2：名古屋学芸大学「履修の手引き」（2023年度 ヒューマンケア学部）  
子どもケア学科カリキュラムマップ&ナンバリング p8～10
- 1-2-3：学生受講結果アンケートまとめ2022（nuas.ac.jp）  
<https://www.nuas.ac.jp/download/2022/2022jigyohyoka.pdf>
- <幼児保育専攻>
- 1-2-1：名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部HP 学外実習を手厚くサポートするチューター制度 <https://www.nuas.ac.jp/humancare/childcare/>
- 1-2-2：名古屋学芸大学HP 教員組織 <https://www.nuas.ac.jp/profile/staff/index.html>
- <児童発達教育専攻>
- 1-2-1：教職プロフェッショナル講座・実習サポート等  
<https://www.nagoyagakugei.com/childcare/elementary/department.html>
- <栄養科学研究科>
- 1-2-1：教員組織（大学院栄養科学研究科）  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/staff/g\\_nutritional.html](https://www.nuas.ac.jp/profile/staff/g_nutritional.html)
- 1-2-2：課程修了後の主な就職先  
[https://www.nuas.ac.jp/download/2023/gr\\_syushokusaki.pdf](https://www.nuas.ac.jp/download/2023/gr_syushokusaki.pdf)
- <子どもケア研究科>
- 1-2-1：教員組織：教員構成一覧：名古屋学芸大学の紹介ホームページ  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/staff/g\\_child\\_care.html](https://www.nuas.ac.jp/profile/staff/g_child_care.html)

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 《管理栄養学部》

##### [現状説明]

管理栄養学部では、教職を担うべき適切な学生の確保・育成のために、以下の取り組みを行っている。

- ・アドミッションポリシーに「食と健康に関わる様々な分野について総合的に学習し、学童を含む様々な人へ栄養面から社会貢献することに意欲や能力を有する人を求める」ことを掲げ、学生の募集を行っている（資料：アドミッションポリシー）。
- ・一年次・二年次の履修ガイダンスで、栄養教諭教職課程の説明を行い、教職履修者を募集・確保している。
- ・教育課程編成・実施の方針として「教職への情熱と旺盛な研究心を持って、広く教養科目を履修するとともに、教科及び教職に関する科目において優秀な成績をあげ、生活面でも他の模範となる」ことを掲げ、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するために、教職課程科目に限らず、履修科目に不認定評価を受けた者は履修を継続できないことを取り決めている。
- ・栄養教諭一種免許認定の教育方針として、「子どもたちが将来にわたって健康な生活を営めるよう、食の自己管理能力や望ましい食習慣を子どもたち自身が身につけるために、食に関す

る指導の推進に中核的な役割を担う栄養教諭を育成する」ことを掲げ、一人一人に教育が行き届く適切な規模として、少人数教育（20名単位）を行っている。（資料：教職課程ホームページ）

- ・学生にポートフォリオ（履修カルテ）を作成させることで、学生一人一人の適正や資質に応じた教職指導が行われている。

#### [長所・特色]

管理栄養学部の、教職を担うべき適切な学生の確保・育成には、以下の長所・特色がある。

- ・本学のオープンキャンパスには入学を目指して多くの高校生が参加する。そのため、栄養教諭として働く卒業生をオープンキャンパスに招き、高校生を対象に、栄養教諭の業務ややりがいを紹介している。それにより、栄養教諭を目指して本学に入学する学生の増加を図っている。
- ・1年生を対象にした授業で、地域の栄養教諭から、栄養教諭の業務を学ぶ機会を設けている。また、栄養教諭として働く卒業生を招き、教職履修者を対象とした栄養教諭育成研究会を実施している。現場の栄養教諭から直接学ぶ機会を設けることで、学生の履修意欲を高め、適切な教職課程履修者の確保に繋げている（資料：育成研究会資料）。
- ・教職（栄養教諭）は栄養士の職域の一部であり、教職課程履修者は限定されている（20名程度）。そのため、少人数制のきめ細かな教育が可能となっている。例えば、学生が作成するポートフォリオ（履修カルテ）により、一人一人の適正や修得度に応じた教育を行っている。学生は、ポートフォリオを通して学びを振り返り、自身の修得度を評価したり、自己の成長や課題、教職への適正を認識できている。

#### [取り組み上の課題]

年度によっては、教職課程履修者が少ないことや、履修の継続を諦める学生が多いことがある。教職課程履修の選択を行う1年次後期履修登録までに、教員免許取得の意義や、社会における栄養教諭の重要性を十分に説明し、教職の適正、資質に合う学生を確保する必要がある。また、教職課程履修の継続を諦める学生を減らすために、定期的な声かけやフォローを十分に行う必要がある。

#### 《ヒューマンケア学部》

ヒューマンケア学部子どもケア学科では、アドミッションポリシーや学科における教育の概要に関する内容を動画等も利用し大学HP・学部HPへ公開、広報誌への掲載、オープンキャンパスにおける対面の説明等を通して、学科、各専攻に相応しい学生の募集やガイダンスを行っている。入学後にはオリエンテーション等を通して教職課程の履修のプロセスを示している。

#### <子どもケア学科子どもケア専攻>

#### [現状説明]

子どもケア専攻では、教職を担うべき適切な学生の確保・育成のために、以の取り組みを行っている。

- ・ヒューマンケア学部子どもケア学科のアドミッションポリシーを受け、子どもケア専攻のホームページや大学のパンフレットにおいて、目指す養護教諭像として「子どもたちの健康と安全を守る学校保健のスペシャリスト」として挙げている（資料：子どもケア学科紹介、専攻の概要）。
- ・オリエンテーションに関しては、養護教諭一種免許状取得にかかわるオリエンテーションや（1、2年次）、養護実習直前オリエンテーション（3年次）を実施している。また、中・高（保健）教諭免許取得にかかわる教職課程登録や介護等体験ガイダンス（3年次）および教育実習事前ガイダンス（4年次）を行っている。
- ・1年次については新入生オリエンテーション内で本学における教員養成について周知している。
- ・学生にポートフォリオを作成させることで教職課程の各授業で何を学び、どのように考えたかを振り返ることによって学びを深めている。それを教員が点検することで、学生一人一人の適性或資質に応じた指導をしている。

#### [長所・特色]

子どもケア専攻の、教職を担うべき適切な学生の確保・育成には、以下の長所・特色がある。

- ・本学のオープンキャンパスには入学を目指して多くの高校生が参加する。そのため、養護教諭として働く卒業生をオープンキャンパスに招き、高校生を対象に、養護教諭の業務ややりがいを紹介し、養護教諭を目指して本学に入学する学生の増加を図っている（資料：子どもケア専攻オープンキャンパスレポート）。
- ・実習及び演習科目については、養護教諭や看護師の実務経験のある実務家教員が担当している。学生一人一人の個性を生かした指導や技術の習得をめざし、学生定員60名を2クラスに分けて、少人数で実践的指導が行われている。

#### [取り組み上の課題]

養護教諭の採用試験には厳しい現状があるが、十分理解せずに履修する学生がいる。受験生や1年生に対し、養護教諭の採用状況や教育課程について説明会を複数回実施し、養護教諭を希望する学生に対して、今後の学びや活動について情報提供するとともに動機づけを高めていく必要がる。

#### <子どもケア学科幼児保育専攻>

#### [現状説明]

子どもケア学科のアドミッションポリシーを受け、幼児保育専攻HPにて受験生やその保護者

を対象に、目指す保育者像とそれに向けた育成内容を発信している。

特に、「専門性と実践力を併せ持つ保育のプロをめざす」ための学びの特徴として、「学部附属子どもケアセンターを活用した学習サイクルにより、理論と実践の往還」、「専門性と実践力を高める4分野(保育・教育/保健/福祉/心理)と専攻独自のキャリア支援科目(保育職キャリアデザインⅠ・Ⅱ)やピアノレッスン等による複合的な学び」を掲げ、教職を担うべき適切な学生の確保・育成を行っている(資料:4年間の学びの流れ、子どもケアセンターとは)。

#### [長所・特色]

幼児保育専攻の、教職を担うべき適切な学生の確保・育成には、以下の長所・特色がある。

- ・2023年度よりスタートした新カリキュラムには「保育職キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を開講し、1年生前期より学部附属の子どもケアセンターにて地域の親子とのふれあい体験や子どもケアセンター保育士との保育者体験により子どもとかかわる楽しさを体感し、学生のキャリアデザインを早期からサポートしている。科目担当者の経歴は、保育士、幼稚園教諭、施設職員、子育て支援に携わっている等であり、保育職について広く現場に即したキャリアデザインの選択肢を提供できている。
- ・2024年度からは日進市竹の山小学校でのボランティアも予定している。

#### [取り組み上の課題]

幼児保育専攻の、教職を担うべき適切な学生の確保・育成には、以下の取り組み上の課題がある。

- ・18歳人口の減少ならびに保育者志望者が減少している。保育者を目指す学生の人数だけでなく質を確保するには従来のHPや大学案内パンフレット、オープンキャンパスだけでは不十分である。本専攻の教育方針を理解した高校とのつながりを強化するために、広報課や入試課と連携を図りながら、高校訪問や出前授業など、大学からの様々な発信やアプローチを模索していく。
- ・教職を希望する学生の数が減少している。教職を担う学生の確保に向け、本専攻の特徴である「体験型教育」について体験に基づいた実感を強化する。子どもケアセンターにおける地域の親子と学生との交流を見学したり、子どもケアセンター専属保育士との交流を企画していく。
- ・「保育職キャリアデザインⅠ・Ⅱ」は2023年度スタートしたばかりの科目であるため、受講者全員が複数回のふれあい体験を確保するための子どもケアセンター事業との調整が課題となっている。時間割作成において、子どもケアセンター事業の実施日と1年生の空きコマが調整できるよう配慮する。

#### <子どもケア学科児童発達教育専攻>

#### [現状説明]

児童発達教育専攻では、教職を担うべき適切な学生の確保・育成のために、以下の取り組みを行っている。

- ・教職を担うべき学生の確保・育成のために、子どもの発達と教育について学ぶ大学のアドミッションポリシーと教育内容を説明し学生の募集を行っている。また、年2回、オープンキャンパスを開催し、その際に「特別支援教育や心理学、小学校の教科指導に関する講座」を開講し、教職の魅力を参加者や保護者に伝えるようにしている。
- ・学生には各学年における到達目標を示し、1年間の振り返りと学修の成果をポートフォリオとして作成させ、教職課程の各授業について何を学んだか、そこから教職に関してどのような問いを持ってどのような考察を行ったかなど、自らの学習の発展について省察を深めるように履修させている。それを教員が点検することで、一人一人の適性或資質に応じた指導をしている。
- ・現職教員の話聞く会や早期学校体験などの特別講座や学校現場で求められるICT活用の実践的指導を行っている（資料：教職プロフェッショナル講座「早期体験学習「学校見学会」の実施」）。
- ・子どもの個性や可能性を引き出す教育者や支援者になりたいと思う学生を育成している（資料：児童発達専攻ホームページ）。

#### [長所・特色]

児童発達教育専攻の、教職を担うべき適切な学生の確保・育成には、以下の長所・特色がある。

- ・児童発達専攻の学年の学生定員40名に対し、学校現場を経験した教職課程教員が12名おり、学生一人一人の個性を活かした指導に対応できる体制がある。
- ・「初等理科教育法」や、「初等家庭科教育法」などの実験や実習を伴う教科では、20人以下の少人数で実践的指導が行われている。
- ・教科教育法を実施する教室には、75インチの電子黒板を設置、ICTの実践的活用ができるよう環境を整備している。

#### [取り組み上の課題]

学生が、ICTを使う機会が少ない。授業時間外でも電子黒板などのICTを自由に使って、模擬授業の準備をしたり、教材研究をしたりすることができるよう、学修環境の充実を図り、教職を担うべき学生の育成に努める。

《大学院》

<栄養科学研究科>

[現状説明]

栄養科学研究科では、教職を担うべき適切な学生の確保・育成のために、以下の取り組みを行っている。

- ・アドミッションポリシーに「栄養科学領域の研究者・教育者および指導的立場の管理栄養士を養成する」ことを掲げ、学生の募集を行っている（資料：人材養成の目的と各ポリシー アドミッションポリシー）。
- ・栄養教諭専修免許取得に必要な科目を、人間栄養、臨床栄養、食行動・食環境、食品機能・食品安全の4領域に配している。多様な健康栄養問題を抱える現代人に対応し得る総合力を有する教員の育成を行っている（資料：シラバス）。
- ・卒業認定・学位授与の方針として、「栄養科学の分野で科学的・論理的な研究が実践でき、かつ専門職業人としての高度な知識・技能を有している」、「栄養科学における問題点を提起し、創造的な手法を提案し、その効果を科学的・論理的に評価し、問題解決できる能力を有している」ことを掲げ、教育効果を上げるために、博士前期課程履修者の定員を5名とし、一人一人に教育が行き届く適切な規模の履修学生の受け入れをしている（資料：人材養成の目的と各ポリシー ディプロマポリシー）。
- ・授業は少人数のゼミ形式で行われ、所属するゼミの教員から、学生一人一人の適正や資質に応じた研究指導が行われている（資料：大学院学生募集要項）。

#### [長所・特色]

栄養科学研究科の、教職を担うべき適切な学生の確保・育成には、以下の長所・特色がある。

- ・人材養成の目的に、「栄養学、食品学のみならず、生命科学、臨床医学、社会医学等における知識を基礎として、人間栄養学、臨床栄養学等、食と健康と医療に関わる総合的見識を養う」ことを掲げ、食物アレルギー、やせ、肥満、孤食など、現代の児童生徒が抱える様々な健康・栄養・社会問題に対し、正しく情報を収集し、論理的思考で課題解決できる栄養教諭の育成を行っている（資料：ディプロマポリシー）。
- ・現職の栄養教諭が社会人大学院生として入学し、専門性を高め、専修免許を取得している。学部から入学した大学院生と社会人大学院生が学び合う機会があることは、双方の幅広い学びに繋がっている。

#### [取り組み上の課題]

栄養教諭専修免許を取得し栄養教諭を目指す学生が少ない。現在、大学4年次に教員採用試験で不合格だった者には講師登録を紹介している。しかし、大学院へ進学し、栄養教諭としての専門性を高めることで社会に貢献できる道があることも紹介していきたい。

#### <子どもケア研究科>

#### [現状説明]

子どもケア研究科では、教職を担うべき適切な学生の確保・育成のために、以下の

取り組みを行っている。

- ・アドミッションポリシーに「将来を担う子どものための支援、子どもを慈しみ、守り、育てる、即ち、子どもに対して多様なアプローチで『ケア』することを掲げ、学生の募集を行っている（資料：人材養成の目的と各ポリシー）。
- ・幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭、中高保健教諭それぞれの専修免許状取得に必要な科目を「幼児保育・初等教育分野」「養護・健康教育分野」「心理・発達支援分野」の3分野に配し、また、現代社会の様々な課題に対応できるように共通科目によって総合力を有し、教職を担うに相応しい学生の育成を行っている（資料：シラバス）。
- ・「卒業認定・学位授与の方針」として、「子どもの発達と教育に対する長期的・総合的視野と臨床学的学識・技能を有するとともに、当面する諸問題に主体的に取り組 みながら、実践的な問題解決能力を有している」、「乳幼児の健全な発育や子育て支援を実践できる能力、又は児童生徒を対象として健康支援全般を担う能力、更に子どもの心の成長や教育現場における支援ができる能力を有している」ことを掲げ、教育効果を上げるために、博士前期課程履修者の定員を5名とし、一人ひとりに教育が行き届く適切な規模の履修学生の受け入れを行っている（資料：大学院学生募集要項）。
- ・授業は少人数のゼミ形式で行われ、研究は所属するゼミの教員から、学生一人ひとりの適性や資質に応じた指導が行われている。

#### [長所・特色]

子どもケア研究科の、教職を担うべき適切な学生の確保・育成には、以下の長所・特色がある。

- ・人材養成の目的に、0歳から18歳までの「子ども」を対象とした学修過程を通じて、広く人間の一生を左右する幼児期から青少年期を如何に保障するか、そのために何を成すべきかについての一層高度な研究、教育を行い（共通科目）、教育や保育の分野、学校現場、医療機関、更には子どもを支援する多様な分野における実践的で高度な専門的知識・技術を身につけ（専門科目）、子どもを慈しみ、守り、育てるという「子どもケア」を担う専門的職業人の養成を目指している。（資料：人材養成の目的）
- ・現職の養護教諭が社会人大学院生として入学し、専門性を高め、専修免許を取得している。学部から入学した大学院生と社会人大学院生が学び合ったり、大学院生が学部生に大学院における学びを紹介したりする機会があることは、幅広い学びに繋がっている。

#### [取り組み上の課題]

子どもケア研究科の、教職を担うべき適切な学生の確保・育成には、以下の取り組み上の課題がある。

- ・幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭専修免許状の取得を目指す学生が少ない。4年次に教員採

用試験で不合格だった者に対し、講師登録を紹介しているが、希望者には、大学院への進学を促し、さらに専門性を高めることで社会に貢献できる道があることを示す必要がある。

- ・年2回実施している保護者懇談会を利用して、(とりわけ養護教諭の採用が厳しいことから)大学院で専門性を高めておく進路もあることを知らせ、進学を促している。
- ・学部卒業生に対し、リカレント教育講座を実施しているが、その折りにも大学院への進学を促している。
- ・フィールドワークなどの教育の実践における能力の育成が不十分である。今後、幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭専修免許状を目指す学生への教育の充実を図る必要がある。

### 【根拠となる資料・データ等】

#### <管理栄養学部>

- 2-1-1：名古屋学芸大学「履修の手引き」(2023年度 管理栄養学部) p1  
管理栄養学科の人材養成の目的、三つのポリシー アドミッション・ポリシー
- 2-1-2：教職課程ホームページ  
<https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/college/teacher/index.html>
- 2-1-3：名古屋学芸大学「履修の手引き」(2023年度 管理栄養学部) p1  
管理栄養学科の人材養成の目的、三つのポリシー ディプロマ・ポリシー
- 2-1-4：栄養教諭育成研究会 第10回開催報告(管理栄養学部ホームページ)  
<https://nutrition.nuas.ac.jp/activity/000274.html>

#### <子どもケア専攻>

- 2-1-1：名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 HP 「子どもケア学科紹介」  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/college/child\\_care/](https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/college/child_care/)
- 2-1-2：名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 HP 「専攻の概要」  
<https://www.nagoyagakugei.com/childcare/childcare/department.html>
- 2-1-3：名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 HP 「子どもケア専攻オープンキャンパスレポート」  
<https://www.nagoyagakugei.com/childcare/childcare/>

#### <幼児保育専攻>

- 2-1-1：名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 HP 4年間の学びの流れ  
<https://www.nuas.ac.jp/humancare/childcare/4years.html>
- 2-1-2：名古屋学芸大学ヒューマンケア学部附属子どもケアセンターHP  
子どもケアセンターとは <https://www.nuas.ac.jp/ccc/about/index.html>

#### <児童発達教育専攻>

- 2-1-1：教職プロフェッショナル講座「早期体験学習「学校見学会」の実施」  
([nuas.ac.jp](https://www.nuas.ac.jp)) <https://www.nuas.ac.jp/download/2023/kyoshoku6-2.pdf>
- 2-1-2：児童発達専攻ホームページ(受験生サイト)  
<https://www.nagoyagakugei.com/childcare/elementary/department.html>

#### <栄養科学研究科>

- 2-1-1：人材養成の目的と各ポリシー(名古屋学芸大学大学院ホームページ)  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/policy/g\\_nutritional.html](https://www.nuas.ac.jp/profile/policy/g_nutritional.html)
- 2-1-2：大学院栄養科学研究科シラバス  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas\\_syllabus\\_gn.pdf](https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas_syllabus_gn.pdf)
- 2-1-3：大学院学生募集要項  
[https://www.nuas.ac.jp/download/2024/2024graduatemaster\\_bosyu.pdf](https://www.nuas.ac.jp/download/2024/2024graduatemaster_bosyu.pdf)

#### <子どもケア研究科>



2-1-1：人材養成の目的と各ポリシー：名古屋学芸大学ホームページ

[https://www.nuas.ac.jp/profile/policy/g\\_child\\_care.html](https://www.nuas.ac.jp/profile/policy/g_child_care.html)

2-1-2：大学院子どもケア研究科シラバス：名古屋学芸大学ホームページ

[https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas\\_syllabus\\_gc.pdf](https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas_syllabus_gc.pdf)

2-1-3：学生募集要項：名古屋学芸大学ホームページ

[https://www.nuas.ac.jp/download/2024/2024graduatemaster\\_bosyu.pdf](https://www.nuas.ac.jp/download/2024/2024graduatemaster_bosyu.pdf)

## 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

### 《管理栄養学部》

#### [現状説明]

管理栄養学部では、教職へのキャリア支援として、以下の取り組みを行っている。

- ・学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握するために、アンケートを実施している。
- ・大学近隣の小学校におけるボランティア活動参加者を募集し、学生のニーズや適性に応じたキャリア支援を行っている。
- ・教職センター主催の説明会を開催し、教職に就くための修学、実習、就職など各種情報の提供を行っている。
- ・教員採用選考試験情報交換会を開催し、4年生が1～3年生に教員採用選考試験に向けて体験を発表したり、相談を受けたりする機会を設けている。
- ・教員採用選考試験の過去問題と採用選考試験体験記を学部教職課程ホームページに掲載するほか、冊子にして配付している。
- ・教員採用試験対策授業や個別相談を実施し、教員免許取得件数、教員採用試験の合格者数を高めている。また、教員採用試験の不合格者には、講師登録を紹介している。
- ・教職履修者を対象に育成研究会を実施し、栄養教諭として働く卒業生が、栄養教諭の業務、社会における重要性、今後解決すべき問題などを紹介することで、教職履修者のキャリア支援に繋げている(資料：育成研究会資料)。

#### [長所・特色]

管理栄養学部の、教職へのキャリア支援には、以下の長所・特色がある。

- ・学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握するためのアンケート結果を、適切な声かけや教育方法の工夫に活かし、教職へのキャリア支援につなげている。
- ・大学近隣の小学校でボランティア活動を行う機会を設けている。実践活動を通して、課題発見力、知識や技能を統合する力、コミュニケーション力を高める支援を行っている。
- ・採用選考試験について4年生が1～3年生に伝える機会を設け、学生間でも情報共有や支援を行えるようにしている。
- ・教職履修者を対象にした育成研究会では、栄養教諭として働く卒業生が、栄養教諭の業務、社会における重要性、今後解決すべき問題などを紹介している。このことは、学生自身の将

来像の具体的なイメージに繋がり、キャリア支援を充実させている。

[取り組み上の課題]

在学生へのキャリア支援は充実しているが、卒業生のキャリア支援は不十分である。今後、卒業生と在校生が学び合う研究会を実施することでキャリアの継続を促す必要がある。

《ヒューマンケア学部》

ヒューマンケア学部子どもケア学科では、学生の教職に就こうとする意欲や適性を引き出すため、教職を目指す上で必要な情報やキャリア支援、早期からの学校見学やボランティア等を計画的に、組織的に行っている。

<子どもケア学科子どもケア専攻>

[現状説明]

子どもケア専攻では、教職へのキャリア支援として、以下の取り組みを行っている。

- ・「養護教諭特別講座担当室」を設置し、実務経験のある教員や退職校長が年間を通して学生の要望に応じて、教職に関わる相談や教員採用試験のための論作文の添削、面接や模擬授業等の個別指導を実施している。なお、卒業生も対象としている。
- ・専攻主催の「採用試験対策講座」を専攻教員の協力のもと、年間を通して「採用試験対策講座」を開催している。なお、夏休みに開講する二次対策講座については、卒業生も対象としている。
- ・教員採用試験を受けた4年生の協力を得て、自治体別に教員採用試験の問題や取り組みについてまとめ、冊子にして配布している。

(資料：子どもケア専攻採用試験突破トータルサポートプログラム)

[長所・特色]

子どもケア専攻の、教職へのキャリア支援には、以下の長所・特色がある。

- ・採用試験対策に当たっては、本学が持つデータベースから自治体ごとの出題傾向を分析し、一人ひとりに適した内容で指導している。
- ・2・3年生を対象に外部講師として現職の管理職を迎え「管理職は養護教諭をどう見ているのか」と題して、養護教諭として身に付けておくべき知識や心構えについての特別講座を実施している。
- ・教員採用試験に合格した4年生を講師として、2・3年生を対象に特別講座（合格者体験談）を実施している。
- ・養護教諭として働く卒業生をオープンキャンパスに招き、高校生を対象に、養護教諭の職務についてやりがいを紹介し、養護教諭を目指す入学者の増加を図っている。
- ・リカレント講座を開催し、卒業生のキャリア支援を図っている。

[取り組み上の課題]

在学者へのキャリア支援は充実してきているが、養護教諭を目指す卒業生のキャリア支援は講座の開催が平日であるため不十分である。今後は、リカレント教育の充実も含め、卒業生の教員採用試験対策を充実していきたい。

#### <子どもケア学科幼児保育専攻>

##### [現状説明]

幼児保育専攻では、教職へのキャリア支援として、以下の取り組みを行っている。

- ・新カリキュラム「保育職キャリアデザインⅠ・Ⅱ」と従来の就職に関する特別講座を融合することにより、キャリアデザインを単位化し、学生同士のキャリアデザインに対する思いや迷いを共有し、教職員によるフィードバックも行う。1年生前期保育職キャリアデザインⅠでの地域の親子とのふれあい体験と保育士との保育者体験をベースに、3年生後期には、学生が様々な保育職の専門家の講話聴講や、自身が関心のある保育現場えでのボランティアを体験する（資料：4年間の学びの流れ）。また、授業内でその体験を共有しフィードバックすることでキャリアデザインを明確にしている。
- ・小学校教諭免許取得希望者には、現場経験豊富な教職課程の教員による「教職プロフェッショナル講座」を企画しており、採用試験対策等、個別指導を丁寧に行っている。

##### [長所・特色]

幼児保育専攻の、教職へのキャリア支援には、以下の長所・特色がある。

- ・教職へのキャリアデザインを具体化するために、現場経験豊富な教員による支援や科目担当により、現場の現状やニーズを踏まえたキャリア支援となっている。保育現場や小学校へのインターンシップやボランティアについても積極的に紹介し、学生の実践力を高めている。
- ・夏季の3学年一斉実習の後に、4学年合同情報交換会を実施し、実習体験を基にしたキャリアデザインや採用試験対策等の情報共有を行っている。
- ・教職センターや自習室に過去の採用試験報告書を閲覧できるようにし、早期から採用試験対策への意識を高められるようにしている。

##### [取り組み上の課題]

幼児保育専攻の、教職へのキャリア支援には、以下の取り組み上の課題がある

- ・インターンシップやボランティア活動の参加状況については、学生によって差がある。学生の正課外活動を促進し、より実践力を高めるためアンケートや聞き取り調査をし、現状の把握と課題解決に向けた具体的方策を模索する必要がある。
- ・在学生へのキャリア支援は充実しているが、卒業生へのキャリア支援は不十分であるため、今後、卒業生と在学生が学び合う機会を設けていく等の検討が必要である。

#### <子どもケア学科児童発達教育専攻>

##### [現状説明]

児童発達教育専攻では、教職へのキャリア支援として、以下の取り組みを行っている。

- ・特別講座として「教職プロフェッショナル講座」を設け、1年生から4年生の希望者に教職経験者による学年別の指導を行っている。
- ・教職センター主催の説明会を開催し、教職に就くための修学、実習、就職などの各種情報の提供と指導を行っている（資料：教職課程キャリアガイダンス等年間スケジュール）。

#### [長所・特色]

児童発達教育専攻の、教職へのキャリア支援には、以下の長所・特色がある。

- ・教職プロフェッショナル講座では、現職教員の話聞く会（資料：現役教師の話聞く会）、早期学校体験、ICT活用、教育時事、教員採用試験対策などを計画的に実施している。

#### [取り組み上の課題]

在学生へのキャリア教育は充実しているが、卒業後、講師を経験しながら、教員を目指す学生も多い、そのため、卒業後の支援も視野に入れ指導体制を整えたい。

### 《大学院》

#### <栄養科学研究科>

#### [現状説明]

栄養科学研究科では、教職へのキャリア支援として、以下の取り組みを行っている。

- ・学生の教職に就こうとする意欲や適性を、入学試験時の面接にてヒヤリングしている。
- ・大学近隣の小学校におけるボランティア活動への参加を促している。学部生参加者をリードする機会を設け、キャリア支援に繋げている。
- ・教職センター主催の説明会および履修ガイダンス時に、教職に就くための修学、就職など各種情報の提供を行っている。
- ・個別相談を実施し、教員免許取得件数、教員採用試験の合格者数を高めている。また、教員採用試験の不格者には、講師登録を紹介している（資料：卒業生の進路資料）。

#### [長所・特色]

栄養科学研究科の、教職へのキャリア支援には、以下の長所・特色がある。

- ・大学近隣の小学校におけるボランティア活動に学部生と参加している。大学院生がこれまでの学びを活かし、学部生をサポートしたりリードする機会を設けることで指導者としてのキャリア支援に繋げている。
- ・学部の教職履修者を対象に開催する研究会で、大学院生は会の準備、運営のサポートを行っている。栄養教諭の業務、社会における重要性、今後解決すべき問題などを学ぶ研究会の趣旨を、主催者視点で学ぶことで、キャリア支援に繋げている。

#### [取り組み上の課題]

学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握したり、教員採用試験の対策を行うなどの機会が

少ない。今後、キャリア支援としての個別面談や試験対策などを、教員間の連携を図りながら実施する必要がある。

<子どもケア研究科>

[現状説明]

子どもケア研究科では、教職へのキャリア支援として、以下の取り組みを行っている。

- ・学生の教職に就こうとする意欲や適性については入学試験時の面接にてヒヤリングしている。
- ・幼稚園や学校におけるボランティア活動を積極的に行い、教育現場を理解するように促し、キャリア支援につなげている。
- ・履修ガイダンス時に、教職に就くための修学、就職など各種情報の提供を実施している。

[長所・特色]

幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭として働く卒業生を大学に招き、教職履修者を対象に研究会を開き、それぞれの業務について、社会における重要性、解決すべき問題などを紹介し、教職履修者のキャリア支援につなげていく体制が整いつつある。

[取り組み上の課題]

教員採用試験対策を行うなど、組織的な支援は行っていない。今後、教員間の連携を図り、実施する必要がある。

### 【根拠となる資料・データ等】

<管理栄養学部>

2-2-1：栄養教諭育成研究会 第10回開催報告（管理栄養学部ホームページ）

<https://nutrition.nuas.ac.jp/activity/000274.html>

<子どもケア専攻>

2-2-1：名古屋学芸大学 受験生サイト 「子どもケア専攻採用試験突破トータルサポートプログラム」

<https://www.nagoyagakugei.com/childcare/childcare/department.html>

<幼児保育専攻>

2-2-1：名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 HP 4年間の学びの流れ

<https://www.nuas.ac.jp/humancare/childcare/4years.html>

<児童発達教育専攻>

2-2-1：教職課程キャリアガイダンス等年間スケジュール

(nuas.ac.jp)<https://www.nuas.ac.jp/download/2023/kyoshoku1-5.pdf>

2-2-2：現役教師の話を聞く会 <https://www.nuas.ac.jp/download/2023/kyoshoku6-3.pdf>

<栄養科学研究科>

2-2-1：卒業生の進路資料

[https://www.nuas.ac.jp/download/2023/gr\\_syushokusaki.pdf](https://www.nuas.ac.jp/download/2023/gr_syushokusaki.pdf)

## 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

《管理栄養学部》

[現状説明]

管理栄養学部では、以下のように教職課程カリキュラムを編成・実施している。

- ・建学の精神である「人間教育と実学」を具現化するために、教育課程カリキュラムとして教養、専門基礎、専門、キャリア支援、教職課程を編成している。各教科の履修に際し、キャップ制を設け、年間履修単位を修学効果の発揮できる範囲に設定している（資料：履修の手引）。
- ・栄養教諭一種免許認定の教育方針として、「子どもたちが将来にわたって健康な生活を営めるよう、食の自己管理能力や望ましい食習慣を子どもたち自身が身につけるために、食に関する指導の推進に中核的な役割を担う栄養教諭を育成する」ことを掲げ、教職課程コアカリキュラムに則った科目を編成している（資料：カリキュラムマップ、教職課程コアカリキュラム）。
- ・教職課程カリキュラムは、愛知県教育委員会の「愛知県教員育成指標」に示される、素養、指導力、マネジメント力の育成や、名古屋市等の「教員育成指標」も踏まえて編成・実施している（資料：カリキュラム、愛知県教員育成指標）。
- ・小中学校における ICT 機器を活用した情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目として「ICT 活用の理論と実践」を設けている。
- ・アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）やグループワークの機会を設け、課題発見や課題解決等の能力を育成している。
- ・教職課程シラバスにおいて、各教科の学修内容や評価方法等を学生に明確に示している。
- ・教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導している。
- ・ポートフォリオ（履修カルテ）を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

[長所・特色]

管理栄養学部の教職課程カリキュラムの編成・実施には、以下の長所・特色がある。

- ・教職課程のキャリア支援科目として「栄養教諭特論Ⅰ」、「栄養教諭特論Ⅱ」、「食物とアレルギー」が設けられ、より専門性に特化した栄養教諭育成のためのカリキュラム編成となっている（資料：カリキュラム）。
- ・学生には、シラバスを用いて栄養教諭教育課程カリキュラムを通して身に付けるべき資質・

能力を説明するとともに、ポートフォリオ（履修カルテ）の作成および、栄養教諭に必要な資質・能力についての自己評価を実施させている。そのため、学生は、教職課程カリキュラムの全体像と、自己の成長段階を把握しながら学修できている。教員は学生の学修状況に応じたきめ細かな指導を実施できている。（資料：資質・能力についての自己評価）

#### [取り組み上の課題]

管理栄養学部の教職課程カリキュラムの編成・実施には、以下の取り組み上の課題がある。

- ・情報機器の活用に関する科目として「ICT活用の理論と実践」は設けられているが、他の教科ではICTの活用が進んでいない。そのため、より専門性に特化し、かつ、ICTを活用した情報の収集やプレゼンテーション能力を育成できる教科を設ける必要がある。
- ・栄養教諭として学校給食現場に必要な給食管理の実践を指導する機会が少ない。そのため、学校給食経営管理の実践を学ぶ教科を設ける必要がある。

#### 《ヒューマンケア学部》

ヒューマンケア学部子どもケア学科では、教職に必要な素養や、採用時に求められる資質能力を確実に身に付けられるよう、コアカリキュラムに対応した教職課程カリキュラムを編成している。

また、本学の建学の精神である「実学」を具現化する上で、幼児児童生徒の発達や学びの連続性への理解を深め、具体的な指導を想定した授業展開を工夫している。

#### <子どもケア学科子どもケア専攻>

##### [現状説明]

子どもケア専攻では、以下のように教職課程カリキュラムを編成・実施している。

- ・子どもケア専攻の教育課程においては、2023年次入学生より「教育職員免許法施行規則第9条」に示す領域に沿って、系列名・及びその科目配列の修正を行い、学生が学ぶべき内容を明確にもてるようにした（資料：カリキュラムマップ&ナンバリング）。
- ・ICT教育については、体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業でのICT活用について、「ICT活用の理論と実践」を設け、指導が行われている。
- ・アクティブラーニングやグループワーク、ロールプレイを取り入れた指導方法をおり、受講生が主体的かつ自主的に学び、課題発見や課題解決等の能力を育成している。

（資料：子どもケア専攻の特徴、シラバス例「救急処置」「保健科教育法」「教職実践演習（養護教諭）」）

- ・教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。

##### [長所・特色]

実習（養護）直前の「養護実習指導」の講義では、学生が教員としての自覚と責任感をもつ

て実習に臨めるよう、校長経験者による特別講義を設定する等、意識の向上に務めている。

[取り組み上の課題]

教職課程カリキュラムの編成には、教育職員免許法に基づいた科目設定をし、補完科目を複数開講しているが、これらの科目が必須科目でないため、教職を目指す学生には履修を勧めるようにしている。2023年度より系列名・及びその科目配列の修正を行い、学生が学ぶべき内容を明確にもてるようにしたが、教員育成指標を踏まえた科目内容の見直しや、補完科目の必須化など検討を続けていく必要がある。

<子どもケア学科幼児保育専攻>

[現状説明]

幼児保育専攻では、以下のように教職課程カリキュラムを編成・実施している。

- ・2023年度コアカリキュラムに移行し、幼児期の学校教育を実践していく専門家としての資質能力を育成するため、保育内容の「領域に関する専門的事項」と「指導法」の充実を図る新カリキュラム体制としている（資料：子どもケア学科幼児保育専攻 カリキュラムマップ&ナンバリング）。
- ・1年次は子どものこころとからだを幅広く理解し、保育現場を体感する。2年次には、実習や演習で保育の職務を疑似体験し、3年次には総合的な専門性を高める。4年次には、ゼミナールでの卒業研究や「保育・教職実践演習」を、4年間の教育実践の学びの集大成としている。
- ・新カリキュラムにより教職にかかわる実習を3年次で完結し、保育職・教員採用試験が前倒し傾向にあることを踏まえ、その対策にも対応できるようにしている。
- ・教育実習を行う上で必要な履修条件を設定し、理論的な学びを基に実践力が発揮できるよう指導を行っている。

[長所・特色]

幼児保育専攻の教職課程カリキュラムの編成・実施には、以下の長所・特色がある。

- ・2023年度からスタートした新カリキュラムには、以下の大学独自科目を配置し特色ある教育課程を編成している。
- ・今後の学校教育において重要となる幼保小接続の理解を深める科目「幼小接続論」を小学校教諭免許取得の有無に関わらず開講している。
- ・3年次以降、より広い専門性を高めるため「医療保育概論・演習」「子ども音楽療育概論・演習」「遊戯療法」「レクリエーション概論・演習」等を開講している。
- ・ポートフォリオ(履修カルテ)に加えて、幼稚園教諭・小学校教諭に必要な資質・能力についての自己評価を行い、学生の学修状況に応じたきめこまやかな指導を実施している。

[取り組み上の課題]

現在、教職必修科目が1～3年生に集中しており、2年生からの実習も重なり、学生の主体的な



教職インターンシップに充てられる時間が限られている。実習を経ているからこそ、具体的な教育現場がイメージできる選択授業を4年生に配置するなど、適切な学びのタイミングと4年間の履修のバランスを検証していく必要がある。

#### <子どもケア学科児童発達教育専攻>

##### [現状説明]

大学における系統的な「教職履修指導」はもちろんのこと、小学校教諭や特別支援学校教諭を養成する本専攻においても、(小学校教諭といえども)高い教科専門性を備え、指導力の高い教員を養成することが求められている。そのため、教科教育内容や教科指導法の授業を1年次から実施し、教科指導力を高めことや実践的な学びを重ねることのできるカリキュラム構成をしている。また、特別支援や心理学についても並行して学修できるようバランスのとれたカリキュラム構成を目指してきている(資料:児童発達教育専攻カリキュラム)。

##### [長所・特色]

児童発達教育専攻の教職課程カリキュラムの編成・実施には、以下の長所・特色がある。

- ・GIGAスクール構想により、ICTを活用した授業改善が推進されている。そのため、1年生の「ICTの活用の理論と実践」では、学校現場で多く採用されているロイロノートスクールの活用、情報発信の手段として、学生全員がYouTubeチャンネルを開設し、動画作成や動画編集、QRコード作成などの基礎的な演習を実施している。この学修が、教科教育法での模擬授業で教師役として活用ができるよう、一人一人の活用能力を高めている。
- ・通常の小学校教諭養成課程にはない新たな視点から教育現場や社会の諸課題に向き合うため、3年次に「特別演習A～E」を設置している。この演習では、さまざまなテーマに沿ってグループ討論やディスカッションを行い、自分自身で考える力や問題解決能力が身につけられるよう工夫している。

##### [取り組み上の課題]

児童発達教育専攻の教職課程カリキュラムの編成・実施には、以下の取り組み上の課題がある。

- ・特別演習の教科の内容は、保健医療領域、福祉領域、発達・教育領域、多文化共生、リスクマネジメントと多岐にわたる。小学校教員や特別支援学校教員を目指す学生には近年の教育現場における様々な課題を意識し、自ら積極的に問題解決ができる資質を身につけることができるようにカリキュラムを編成する必要がある。演習の特色を最大限に活かし、机上の学習にとどめず、主体的対話的で深い学びを自ら体験し教員としての高い資質の醸成を目指したい。そのためには、特別演習における学びをどのように関連付けながら授業を展開するかに着目し、教科の内容精選する必要がある。
- ・教員養成については、教員としての人間性、教育にかける情熱、人としての資質・能力、高い倫理観などに加え、教員としての高い専門性などが求められている。教員としての人間力

育成をも包含した教育課程カリキュラム、質の高い学びや「真正な学び」などの実現が大きな課題となっている。加えて、世界的な動向である資質・能力型の教育への転換、Well-Beingを目指す教育の実現など今後取り組んでいくべき課題は多い。質の高い学びとなるよう、教職カリキュラムを毎年点検し、定期的に見直していく。

## 《大学院》

### ＜栄養科学研究科＞

#### [現状説明]

栄養科学研究科では、以下のように教職課程カリキュラムを編成・実施している。

- ・カリキュラムポリシーに「食と健康と医療に関する総合的見識を備えた栄養科学の研究者・教育者および高度専門職業人を養成する」ことを掲げ、これを具現化するために、教育課程カリキュラムとして、基礎科目、応用科目が設けられている。応用科目は更に、人間栄養、臨床栄養、食行動・食環境、食品機能・食品安全の領域に科目が設定されている。
- ・授業はゼミ形式で行われ、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）やグループワークを促す工夫がされており、課題発見や課題解決等の能力を育成している（資料：シラバス）。
- ・シラバスに、各教科の学修内容や評価方法等を記し、学生に明確に示している（資料：シラバス）。

#### [長所・特色]

カリキュラムポリシーに掲げられた「食と健康と医療に関する総合的見識を備えた栄養科学の研究者・教育者および高度専門職業人」の資質を備えた栄養教諭を育成するために、以下のような特色あるカリキュラム編成になっている（資料：カリキュラム）。

- ・基礎科目であるEBN（Evidence Based Nutrition）特論および演習で、栄養科学の研究者として必要な倫理観、専門に偏らない広範な知識、科学的・論理的な研究手法、外国語文献の読解力などを育成している。
- ・応用科目では、キャリアパスに応じて、人間栄養、臨床栄養、食行動・食環境、食品機能・食品安全の領域ごとに編成された科目で、現代の児童生徒が抱える多様な健康・栄養・社会問題の解決に取り組む力を育成している。
- ・特別研究では、研究倫理および科学的・論理的な研究手法・論文作成法を学ぶことで、論理的思考により課題を解決し、情報を発信する力を育成している。

#### [取り組み上の課題]

教育内容は個々の教員に委ねられているため、系統的な教育が行われていない。今後、教員間で連携を図り、栄養教諭の専修免許取得に必要な資質や能力を育成できる教育課程を系統的

に編成する必要がある。

#### <子どもケア研究科>

##### [現状説明]

子どもケア研究科では、以下のように教職課程カリキュラムを編成・実施している。

- ・少人数であるため、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）形式を取り入れて、課題発見や問題解決等の能力を育成している。また、同時に理論的根拠に基づいた考え方を表現するように促している。
- ・シラバスに各教科の学修内容や到達目標等を記し、学生に明確に示している。

##### [長所・特色]

- ・カリキュラムには、「共通科目」、「専門科目」が設けられ、「専門科目」は更に「幼児保育・初等教育分野」、「養護・健康教育分野」、「心理・発達支援分野」に分かれ、それぞれに科目が配置されている。これらの科目を通して、現代の幼児、児童及び生徒が抱えるさまざまな問題の解決に向けて取り組むことができる幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭を育成するカリキュラム編成となっている。

##### [取り組み上の課題]

教育内容は個々の教員に委ねられているため、系統的な教育が実施されていない。今後、教員間で連携を図り、改めてディプロマポリシーを共通理解し、教育課程の編成を見直す必要がある。

#### 【根拠となる資料・データ等】

##### <管理栄養学部>

- 3-1-1：名古屋学芸大学「履修の手引き」（2023年度 管理栄養学部）p17～21  
取得資格 栄養教諭
- 3-1-2：名古屋学芸大学「履修の手引き」（2023年度 管理栄養学部）p2～4  
管理栄養学科カリキュラムマップ
- 3-1-3：教職課程コアカリキュラム（令和3年8月4日 文部科学省通知）  
[https://www.mext.go.jp/content/20210730-mxt\\_kyoikujinzai02-000016931\\_5.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210730-mxt_kyoikujinzai02-000016931_5.pdf)
- 3-1-4：愛知県経委員育成指標（栄養教諭）  
<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/503304.pdf>
- 3-1-5：栄養教諭 資質能力についての自己評価 様式

##### <子どもケア専攻>

- 3-1-1：名古屋学芸大学「履修の手引き」（2023年度 ヒューマンケア学部）  
子どもケア学科カリキュラムマップ&ナンバリング p8～10
- 3-1-2：名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 HP 「子どもケア専攻の特徴」  
<https://www.nuas.ac.jp/humancare/schoolhealth/>

##### <幼児保育専攻>

- 3-1-1：名古屋学芸大学「履修の手引き」（2023年度 ヒューマンケア学部） 1. 子どもケア学科 幼稚園保育専攻 カリキュラムマップ&ナンバリング p11～13

##### <児童発達教育専攻>

- 3-1-1：児童発達教育専攻カリキュラム

[https://www.nagoyagakugei.com/childcare/elementary/module/pdf/department/elementary\\_curriculum\\_2024.pdf](https://www.nagoyagakugei.com/childcare/elementary/module/pdf/department/elementary_curriculum_2024.pdf)

< 栄養科学研究科 >

3-1-1：大学院栄養科学研究科シラバス

[https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas\\_syllabus\\_gn.pdf](https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas_syllabus_gn.pdf)

3-1-2：名古屋学芸大学大学院 栄養科学研究科 カリキュラム

<https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/grad/nutritional/curriculum.html>

< 子どもケア研究科 >

3-1-1：大学院子どもケア研究科シラバス：名古屋学芸大学ホームページ

[https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas\\_syllabus\\_gc.pdf](https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/syllabus/2022nuas_syllabus_gc.pdf)

3-1-2：名古屋学芸大学大学院 子どもケア研究科 カリキュラム

[https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/grad/child\\_care/curriculum.html](https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/grad/child_care/curriculum.html)

### 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

《管理栄養学部》

[現状説明]

管理栄養学部では、実践的指導力育成と地域との連携として、以下の取り組みを行っている。

- ・ 栄養教諭としての実践的指導力を育成する機会として、食育推進全国大会に参加している（資料：「食育推進全国大会 in とやま」、「食育推進全国大会 in あいち」）。
- ・ 近隣の小学校でボランティア活動を行い、活動内容を振り返りレポートを作成している。
- ・ 地域の栄養教諭を招き、地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。
- ・ 市（日進市）の教育委員会と連携し、学生が地域の小学校でボランティア活動を行っている（資料：竹の山小学校ボランティア活動に関する覚書）
- ・ 教職センターと教育実習協力校が連携して実習期間の調整や内容の報告を行い、教育実習の充実を図っている。

[長所・特色]

管理栄養学部の実践的指導力育成と地域との連携には、以下の長所・特色がある。

- ・ 栄養教諭としての実践的指導力を育成する機会として地域の食育イベントに参加している。2022年に参加した食育推進全国大会では、管理栄養、ヒューマンケア、メディア造形の三学部の学生が協働し、「健康」、「衛生」、「食文化」をテーマに「目指すべき教材のあり方」を検討しながら食育教材の開発を行った。2023年の大会では、デザイン学科の学生を中心に、管理栄養学科、看護学科の学生が協働し、楽しく食育を学べるボードゲーム型の教材を開発した。他学部と協働することは多様な学びの機会となっている。（資料：「食育推進全国大会 in とやま」、「食育推進全国大会 in あいち」）。
- ・ 地元日進市との連携として、健康・福祉フェスティバルに参加した。ブースを運営し、地域の子どもたちへの食育を実施した。日進市は子育て世代が多いため、地域の特性を活かした

学びができています。(資料：日進市 健康・福祉フェスティバル)

- ・地域の栄養教諭との連携として、1年次生を対象にしたキャリア支援授業を実施し、栄養教諭の業務、社会における重要性、やりがいなどを学ぶ機会を設けている。これにより地域の栄養教諭への理解や実践的指導力を高めている。

[取り組み上の課題]

現在、学生が地域でボランティア活動を行っているが、活動の場が限定されている。児童・生徒の健康・栄養問題は地域や施設によって異なる。今後、様々な地域、施設、栄養教諭と連携し、学生の実践指導力を育成する機会を設ける必要がある。

〈ヒューマンケア学部〉

ヒューマンケア学部には、他学部にはない附属子どもケアセンターを設置しており、主に保育士・幼稚園教諭の実践的指導力を育成する機会を設定することができる。地域の乳幼児との触れ合いやその保護者との関わりは、実習のみでは得られない学びとなっている。

日進市立竹の山小学校を始めとする小学校でのボランティアやインターンシップ、障害のある児童等のデイサービスや施設におけるボランティア等、地域とのつながりを広げつつある。

〈子どもケア学科子どもケア専攻〉

[現状説明]

子どもケア専攻では、実践指導力の向上に向け、学生が現場を体験的に理解する機会を得られるように尽力している。近隣の小学校での教育支援や定期健康診断の補助、児童支援に加え、子どもケアセンターでの保育体験等の保育実践を積み、指導力育成に役立てている(資料：子どもケア専攻独自の教育プログラム・課外活動)。

[長所・特色]

3年生後期の金曜日は講義を入れないようにして、インターンシップやボランティア活動をするように呼び掛けている。多くは、実習校や地元の小学校でボランティア活動を行っている。

[取り組み上の課題]

養護教諭志望でありながら、いろいろな事情で学校ボランティア活動に参加していない学生がいる。特に下宿している学生は、ボランティア先を見つけにくい状況である。学校ボランティア活動することの意義を周知するとともに、ボランティア先を紹介するシステムの向上を図ることが課題である。

〈子どもケア学科幼児保育専攻〉

[現状説明]

インターンシップやボランティアに積極的に参加する学生が多い。中でも学部附属子どもケアセンターのボランティアでは地域の親子と触れ合ったり、遊びを企画・実践したり、地域の親子や子どもケアセンター保育士より保育についての実際的な学びを深めている(資料：遊び

の交流会)。どの学生も子どもケアセンターボランティアに参加できるよう時間割の中に「子どもケアセンターでのボランティア体験のための時間帯」を週に1コマずつ確保している。

[長所・特色]

幼児保育専攻の実践的指導力育成と地域との連携には、以下の長所・特色がある。

- ・授業や実習での学びを年に2回の「遊びの交流会」にて、学生ボランティアが地域の子育て家庭100組ほどを招いて遊びを通して交流する。毎回、200名以上の学生ボランティアが総括、ブースリーダーを選出し遊びを企画・運営している。
- ・子どもケアセンター保育士の見守りの中、授業の一環やボランティアにて0～2歳児の子どもと1対1で託児を行い子どもと関わる基本を修得している。子育て中の保護者との関りの中で、現在の子育て家庭の状況、及び、子育て支援の在り方等を体感することができる。
- ・授業の一環として、保育・教職実践演習にて4年次に親子対象の遊びを計画し実践している。

[取り組み上の課題]

子どもケアセンターは学内にあるため、「子どもケアセンターでのボランティア体験のための時間帯」や授業の空きコマでボランティアに参加することは可能であるが、参加学生は上級生になるほど固定されてくる。キャリアデザインが明確になり、学生自身が具体的な就職先と直結する学外でのインターンシップやボランティアが増えてくることも考えられるが、実際の状況を把握する必要がある。アンケートや聞き取り調査により、上級生の正課外活動の時間が減少している場合、ゼミナールや授業において正課外活動で得られる学びについてあらためて伝えていく必要がある。

<子どもケア学科児童発達教育専攻>

[現状説明]

児童発達教育専攻では、実践的指導力育成と地域との連携として、以下の取り組みを行っている。

- ・日進市の教育委員会と連携し、学生が地域の小学校でボランティア活動を行うことができる体制を整えている。
- ・他の自治体においても学校ボランティアに参加することができるよう、教職センターを中心に情報を発信している。

(資料：教育委員会との連携、体験活動・ボランティア)

[長所・特色]

採用試験に合格した学生は、地域の学校やインターンシップ校などで、教員としてスタートできるようボランティアとして学校現場で学ぶよう指導している。

[取り組み上の課題]

インターンシップ、ボランティアに参加する学生が限られている。今後、学生の活動に対し

での募集や指導など、教職センターと連携して、実践的指導力の向上を図りたい。

#### 《大学院》

##### ＜栄養科学研究科＞

###### [現状説明]

学部で開講されている実験・実習の授業に、ティーチングアシスタント(TA)として参加する機会を設けることで、教育現場における実践的指導力を育成している。

###### [長所・特色]

大学院生が学部の実験・実習にティーチングアシスタント(TA)として参加し、学部学生に助言をしたり、教育補助業務を行う機会を設けている。この実践的経験を通して、授業の計画と実施、授業方法の工夫、評価法など、授業運営の一連の流れを学期を通して長期的に学び、実践的指導力を身に付けることができている。

###### [取り組み上の課題]

学外での実践体験を通じた実践的指導力育成の機会が少ない。そのため、学部の教職課程と連携し、インターンシップ先を確保し、大学院教育課程のインターンシップ制度を活用して、地域の教育現場で実践体験を積む機会を設ける必要がある。

##### ＜子どもケア研究科＞

###### [現状説明]

子どもケア研究科における、実践的指導力育成と地域との連携には、以下の現状がある。

- ・学部の実験・実習にティーチングアシスタント(TA)として参加することで、教育現場における実践的指導力を育成することができるが、入学者が少ないこともあり、毎年の計画に取り入れることができていない。そのため学部との連携が叶わず、実現できていない。
- ・地域の幼稚園や学校へのボランティア活動には積極的に参加するように促している。

###### [長所・特色]

共通科目に「子どもケアフィールドワーク」を設けており、積極的に教育現場で実践的経験を積むように指導している(資料:カリキュラム)。

###### [取り組み上の課題]

今後、学部と大学院の教職課程教育とが連携して教育を行う必要がある。

#### 【根拠となる資料・データ等】

##### ＜管理栄養学部＞

3-2-1: 食育推進全国大会inとやま(名古屋学芸大学デザイン学科ホームページ)

<https://media.nuas.ac.jp/design/topics/20230719/>

3-2-2: 食育推進全国大会inあいち(名古屋学芸大学管理栄養学部ホームページ)

<https://nutrition.nuas.ac.jp/activity/000201.html>

3-2-3：日進市 健康・福祉フェスティバル

3-2-4：竹の山小学校ボランティア活動に関する覚え書（2018年管理栄養学部と竹の山小学校）  
<子どもケア専攻>

3-2-1：名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 HP「子どもケア専攻独自の教育プログラム・課外活動」  
<https://www.nuas.ac.jp/humancare/schoolhealth/>

<幼児保育専攻>

3-2-1：名古屋学芸大学ヒューマンケア学部附属子どもケアセンターHP遊びの交流会  
<https://www.nuas.ac.jp/ccc/program/page03.html>

<児童発達教育専攻>

3-2-1：教育委員会との連携、体験活動・ボランティア（地域連携）  
<https://www.nuas.ac.jp/download/2023/kyoshoku6-4.pdf>

<子どもケア研究科>

3-2-1：名古屋学芸大学大学院 子どもケア研究科 カリキュラム：  
[https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/grad/child\\_care/curriculum.html](https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/grad/child_care/curriculum.html)



### Ⅲ. 総合評価

本教職課程自己点検評価では、3つの基準領域、1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」、2「学生の確保・育成・キャリア支援」、3「適切な教職課程カリキュラム」について、管理栄養学部、ヒューマンケア学部子どもケア学科（子どもケア専攻、幼児保育専攻、児童発達教育専攻）、大学院（栄養科学研究科、子どもケア研究科）の現状、長所、課題を評価した。

基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」では、各学部・専攻・研究科が、ディプロマ・ポリシーに則り、教職課程教育の目的・目標を掲げ、シラバスに掲載し、周知、共有、可視化している。一方で、教員間の情報共有不足という課題が抽出された。

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」では、各学部・専攻・研究科が、アドミッション・ポリシーに則り、学生募集と教職課程の履修指導を行っている。また、学生にポートフォリオ（履修カルテ）を作成させることで、学生一人一人の適性或資質に応じた教職指導を行っている。一方で、教職課程履修者の減少という課題が抽出された。

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」では、本学の建学の精神である「人間教育と実学」を具現化するため、教養、専門、教職課程カリキュラムにより、豊かな教養の上に専門性を活かした教員の育成が行われている。また、地域と連携した実践的指導力育成の機会も設けられている。しかし、ICTの活用能力を育てるカリキュラムを充実させることが課題として抽出された。

本学では、幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭、養護教諭、栄養教諭を養成し、0歳から18歳までの子どもの発達過程を体系的に学ぶことができる。さらに、地域と連携した育成や、大学院で専門性を高めることができることを特徴としている。

このように、本学の教職課程教育は概ね順調に行われているが、ICTの活用能力をはじめ、多様な視点で問題を解決できる教員の育成を行うために、各学科だけでなく、学科を超えて教員間の情報共有を行い、教育の体制づくり、学生の確保、カリキュラム編成を充実させることが課題である。

#### IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

次の手順にて「教職課程自己点検評価」を実施し、本報告書を作成した。

第1プロセス：教職課程委員会により教職課程自己点検評価の実施について検討

2021年 2月24日 第 6回教職課程委員会

2021年 6月23日 第 2回教職課程委員会

第2プロセス：教職課程自己点検評価の実施体制について

2022年 2月22日 第10回教職センター(仮称)設置準備委員会(2022年4月教職センターの設置)

2022年 6月30日 第 2回教職課程委員会(教職課程自己点検評価部会の設置)

第3プロセス：本学用教職課程自己点検評価の項目について

2022年 6月30日 第 1回教職課程自己点検評価部会

8月23日 第 2回教職課程自己点検評価部会

11月24日 第 5回教職課程委員会

12月08日 第 3回教職課程自己点検評価部会

2023年 2月16日 第 4回教職課程自己点検評価部会

第4プロセス：教職課程自己点検評価の掲載について

2022年12月7日 自己点検評価委員会において2023年度実施の大学認証評価各学部学科内に含めることを決定。

第5プロセス：教職課程自己点検評価の単独作成を決定

2023年 6月22日 第 2回教職課程委員会

第6プロセス：教職課程自己点検評価の実施及び報告書の作成

2023年 6月22日 第 1回教職課程自己点検評価部会

9月07日 第 2回教職課程自己点検評価部会

10月26日 第 3回教職課程自己点検評価部会

11月30日 第 4回教職課程自己点検評価部会

第7プロセス：教職課程自己点検評価報告書の確定

2024年 2月22日 第 6回 教職課程委員会

3月 6日 第10回 評議会

第8プロセス：情報公表

2024年 4月末日 一般社団法人全国私立大学教職課程協会へ提出

5月31日 大学Webサイトへ公表予定

## V 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

法人名 学校法人 中西学園					
大学・学部名 名古屋学芸大学 / 名古屋学芸大学大学院					
学部・学科・専攻名 管理栄養学部 管理栄養学科 ヒューマンケア学部 子どもケア学科 子どもケア専攻／幼児保育専攻／児童発達教育専攻 メディア造形学部 映像メディア学科 / デザイン学科 / ファッション造形学科 看護学部 看護学科 栄養科学研究科博士前期課程、博士後期課程 / メディア造形研究科 / 子どもケア研究科 / 看護学研究科 別科助産学専攻					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数					793名(9月卒1名)
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					666名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					253名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					97名(+大学院)
④のうち、正規採用者数					53名(+大学院)
④のうち、臨時的任用者数					44名(+大学院)
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ( 助手 )
教員数	69名	39名	38名	10名	35名